

都道府県名

宮 城 県

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	矢本町立矢本西小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	2	14	22
児童数	62	54	52	47	49	57	2	323	

研究の概要

## 1．研究主題

一人一人を生かし，確かな学力の向上をめざす学習指導のあり方  
 ー多様な指導方法・指導体制の工夫を通してー

## 2．研究内容と方法

## (1) 実施学年・教科

## 少人数指導

1～6学年 算数（担任＋少人数担当）

- ・子どもの理解度に差が出やすい教科だから。
- ・学力テストの結果から，全領域で全国平均値を下回り，個人差も著しいものがあつた。

## TT指導

1学年 国語（各担任＋少人数担当）

- ・初等教育導入期の段階において基礎・基本及び学習習慣を確実に身に付けるようにするため。

4・5・6学年 音楽・図工・家庭（各担任＋中学校教員）

- ・より専門性が要求される内容になるため。
- ・中学校への移行がスムーズに行われるようにするため。

## 教科担任制

4・5・6学年 理科・書写（担任以外の教員）

- ・より専門性が要求される内容になるため。
- ・中学校への移行がスムーズに行われるようにするため。

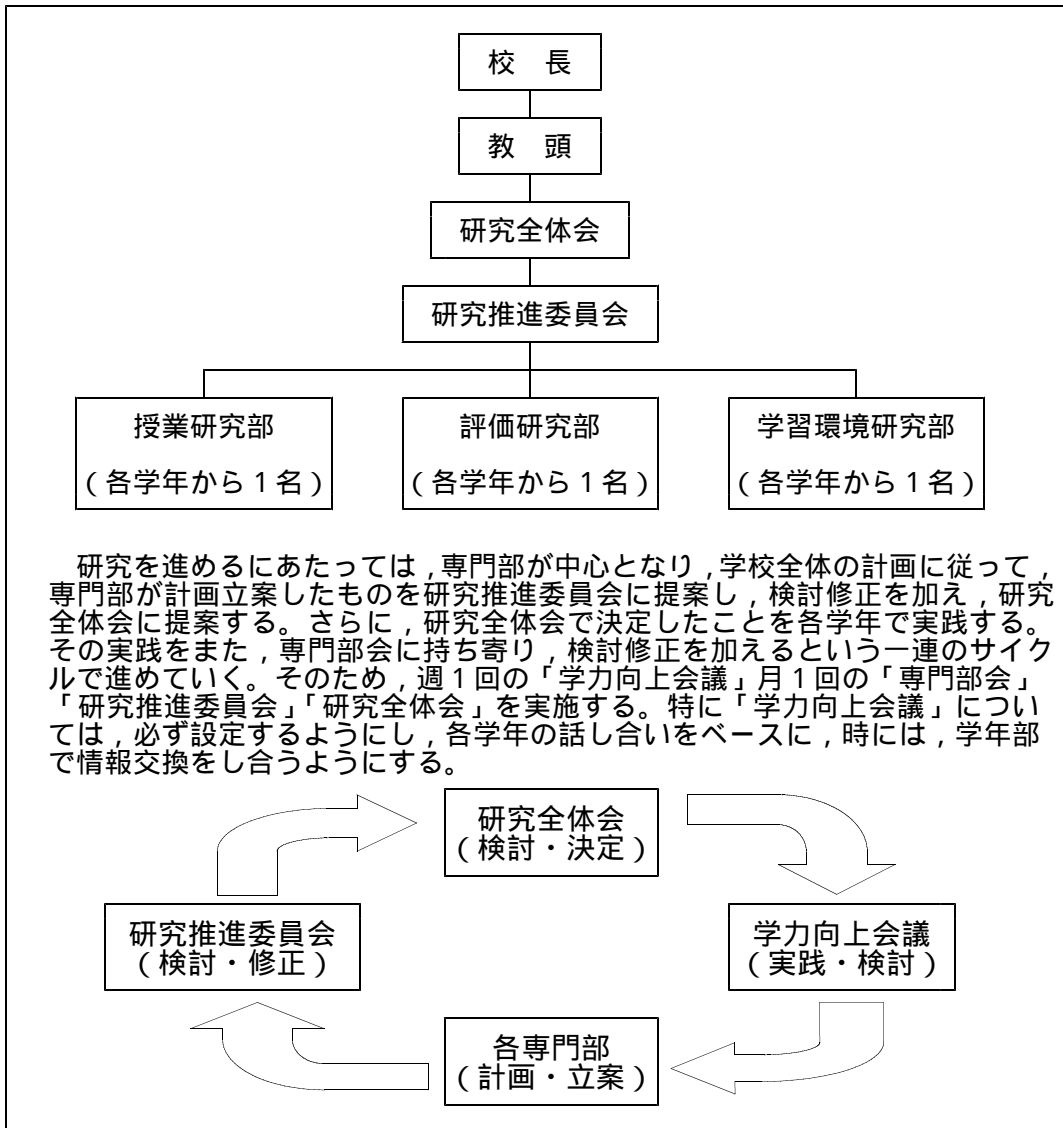
(2) 年次ごとの計画

平成 14 年 度	<p>テーマ</p> <p>一人一人を生かし，確かな学力の向上をめざす学習指導の工夫</p> <p>－「指導方法・指導体制の工夫改善」を通して－</p> <p>研究の見通し（仮説）</p> <p>日々の実践授業において以下のような手立てを工夫をしていけば，児童の確かな学力を向上させることができるであろう。</p> <p>【手立て1】1単元内（1時間内）における少人数・T T・教科担等の指導体制の工夫</p> <p>【手立て2】授業場面，授業場面以外での指導方法の工夫</p> <p>【手立て3】指導に生かせる評価の工夫</p> <p>研究内容・方法</p> <p>（1）児童の実態や単元の内容（目標）に応じた指導体制のあり方</p> <p>（2）少人数・T T・教科担任制における授業の工夫</p> <p>（3）授業時間内や業前の時間における補充指導の工夫</p> <p>（4）児童一人一人に応じた指導を図るための評価の工夫</p> <p>（5）学習環境，学習習慣の工夫</p> <p>（6）保護者，地域への啓発活動</p>
--------------------	--

平成 15 年 度	<p>テーマ 一人一人を生かし，確かな学力の向上をめざす学習指導のあり方 －多様な指導方法・指導体制の工夫を通して－</p> <p>テーマは，あまり変えず，内容で深めていきたいと考え，テーマを平成14年度と同じような表現に変えた。</p> <p>研究の見通し（視点） 【視点1】多様な指導方法・指導体制における授業づくりの工夫 【視点2】一人一人を生かす評価の工夫 【視点3】学習環境の工夫</p> <p>「発展的・補足的な学習の工夫」は，授業づくりの一貫なので，授業【視点1】に組み入れた。</p> <p>研究内容・方法 (1) 指導体制の工夫 (2) 指導方法の工夫 (3) 全校授業研究会の運営 (4) 年間指導計画の検討 (5) 観点別評価一覧表の検討について (6) 自己評価・相互評価の検討 (7) 各種実態調査の実施と分析 (8) 補足的な学習の工夫（授業外） (9) 効果的な学習環境の工夫 (10) 保護者・地域への啓発</p>
--------------------	---

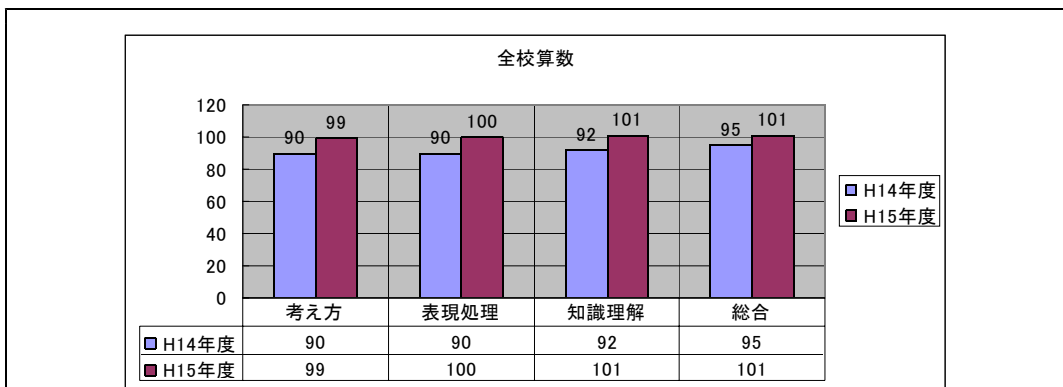
平成 16 年 度	<p>テーマ 一人一人を生かし，確かな学力の向上をめざす学習指導のあり方 －個に応じた指導の工夫を通して－</p> <p>研究の見通し（視点） 【視点1】多様な指導方法における授業づくりの工夫 【視点2】一人一人を生かす評価の工夫 【視点3】学習環境の工夫</p> <p>研究の内容・方法 (1) 習熟度別クラスにおける指導法の工夫 (2) 発展的な学習における教材の開発 (3) 補足的な学習における教材の開発 (4) 年間指導計画の工夫 (5) 観点別評価を生かした指導の工夫 (6) 自己評価・相互評価の検討 (7) 効果的な学習環境の工夫 (8) 教師の指導力向上の工夫 (9) 保護者・地域への啓発</p>
--------------------	--

(3) 研究推進体制

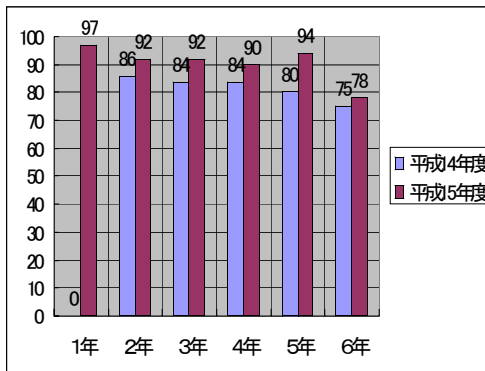


平成15年度の研究の成果及び今後の課題

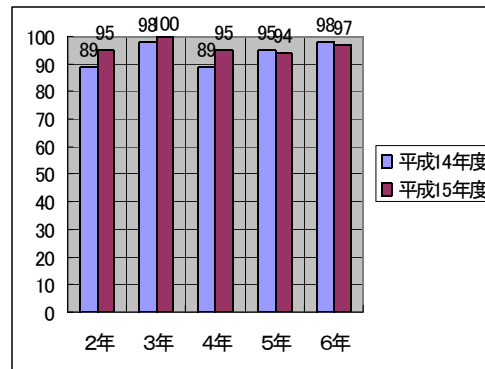
1. 研究の成果



上のグラフは、14年度と15年度の算数科の学力テストの結果で、全国平均を100と見た時の本校の平均点の割合である。



【グラフ1】



【グラフ2】

グラフ1は、「算数が好きになった」と答えた子どもの14年度と15年度の比較である。数字は%。

グラフ2は、「少人数で学習すると、授業が分かる」と答えた子どもの14年度と15年度の比較である。数字は%。

集団間等質少人数指導や習熟度別少人数指導、T T指導の実施は、授業に変化をもたらすとともに、教師の指導が行き渡り、個々の子どもつまづきに対応した指導がより可能になった。特に、習熟度別少人数指導の規定を明確にし、積極的に取り入れたことによって、子ども一人一人の学びをさらに保障することができるようになり、子どもが安心して学習に取り組んだり、自分の学びに満足感を得られることができるようになった。また、そのことは学習に楽しんで取り組む子どもを増加させ、学習意欲の喚起へもつながった。

高学年における教科担任制や中学校教員とのT T指導を実施することで、専門的な指導が可能になり、子ども一人一人の各教科における「意欲」の高揚や「知識・理解」「表現・技能」の習得に効果的であった。

また、教師側でも、互いの指導を見合うことで、日々の教材研究に生かすことができた。

学年所属の教師による学力向上会議を実施することで、共同での教材研究が可能になり、子どもの実態把握・指導と評価の在り方・教材教具の活用等についての統一した見解で授業を推進するのにも有効であった。また、共同で教材研究することで、教師の指導力の向上を図ることができた。

また、全校授業研究会、フロンティア学習会等を実施することで、教師全員の研究に対する意識を高揚したり、課題の共有化を図ったりすることができ、授業の質的な改善を図ることができた。また、このことによって、子どもの基礎学力の向上を図ることもできた。

年間指導計画に新たに「十分満足できる(A)」の判断基準や単元の指導体制を記述したり、それに合わせて、観点別評価一覧表を作成し、指導と評価の一体化を図ってきたことによって、担当者が同一規準で評価を行うとともに、個に応じた指導を行うことができた。

また、子どもの自己評価能力の育成のために、ふり返る観点を提示したり、感想の書き方を工夫させたことによって、自分の学習を的確にふり返ることができるようになってきている。

学力検査、保護者や子どもへの意識調査等を実施することで、子どもの実態を客観的に把握することができ、個に応じた指導を行うことができた。

また、その結果から、指導方法を改善したり、保護者への啓発の仕方を工夫するなど、研究推進の方向性を決めるのに役立った。

業前でのステップアップタイム、放課後の学びの時間を設定することで基礎・基本の定着が図られた。また、「さんすう広場」を設置し、学習の手助けになるような掲示をしたり、教材・教具を工夫して授業に臨んだりすることは、子どもの意欲の高揚に効果的であった。

さらに、家庭学習においても「家庭学習のすすめ」を作成・配布し推奨することで、子どもの学習意欲が高まり、時間や内容的にも深まりが見られるようになった。

フロンティア通信発行や保護者・地域に向けての公開授業の実施は、学力向上フロンティアスクールの取り組みについて理解してもらうとともに、習熟度別指導の実施や家庭学習を進める際の家庭の協力体制作りに役立った。

## 2. 今後の課題

算数科における子どもの実態や単元内容に合わせた指導体制の確立に向け、本年度の実践の上にたった指導の積み上げを図っていき、よりよい指導体制（集団間等質少人数、習熟度別少人数、TT、課題別少人数等）の在り方を探る。

習熟度別指導において、発展的・補充的な学習や教材の開発等、それぞれのコースにおいて個々の子どもへの基礎・基本の定着に向けて、指導法を工夫する。

中学校との連携については、来年度も積極的に取り入れ、その在り方を検討する。

評価について、4観点の細かい判断基準が必要かどうかを含め、年間指導計画や観点別評価一覧表の見直しを図る。

また、自己評価についても、自己評価能力の育成を目指し、6年間を見通した系統的な取り組みの計画作成と実践を図る。

家庭学習を習慣化させ定着を図るための方法を探る。

保護者や地域へのさらなる啓発を図り、どのような協力体制が必要かを探る。

教師の指導力の向上のための方法を検討し、実践する。

### 学力等把握のための学校としての取組

学力テスト  
調査の目的  
・児童の学力の状況及びその向上を客観的に把握し、今後の指導に生かす。

実施内容  
・算数と国語において、前学年の学習内容で実施する。

時期  
・5月

意識調査  
調査の目的  
・児童の学習に対する意識を把握し、今後の指導に生かす。

実施内容  
・少人数指導についての意識や家庭学習等の状況を質問紙法で調査する。

時期  
7月と12月

### フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- \* 研究会開催実績  
平成15年11月5日、管内の小中学校対象  
管内の小中学校の先生方にフロンティアスクールとしての研究成果の普及するため。
- \* 研究会開催予定  
平成16年 5月21日 第1回公開授業研究会（町内対象）  
平成16年 7月 2日 第2回公開授業研究会（管内対象）  
平成16年10月27日 第3回公開授業研究会（県内対象）
- \* 研究成果普及のためのHP作成の実績  
平成16年2月1日にHP開設
- \* フロンティアティーチャーとしての研究成果普及のための活動実績予定  
石巻地区学力向上推進協議会で発表  
公開授業研究会で発表
- \* 研究成果の普及活動の成果（他校への反響等）  
習熟度別指導を各校で実施。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】       15年度からの新規校      ■ 14年度からの継続校
- 【学校規模】             6学級以下                       7～12学級  
                              ■ 13～18学級                     19～24学級  
                               25学級以上
- 【指導体制】            ■ 少人数指導                      ■ T・Tによる指導  
                              ■ 一部教科担任制                 その他
- 【研究教科】            ■ 国語                       社会                      ■ 算数                      ■ 理科  
                               生活                      ■ 音楽                      ■ 図画工作                ■ 家庭  
                               体育                       その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】      ■ 有                       無